

製品・付属品 Q-04

フラッシング 板厚

フラッシングの板厚は、デッキプレートの板厚と同等にするようになっていますが、隙間の大小とコンクリート厚さで決定すべきではないのか。

製品・付属品 A-04

「デッキプレート床構造設計・施工規準-2018」や国土交通大臣の耐火構造認定では、フラッシングもデッキプレートと同様、耐力（コンクリート打設時の型枠として）、耐久性、及び火災時のコンクリート面への火災の遮断性等の機能が要求され、デッキプレートの一部と考えられますのでデッキプレートと同等以上の板厚とすることになっています。コンクリート打設時の型枠性能として、デッキプレートと梁との隙間が小さく、コンクリート厚さが薄い場合、フラッシングの板厚は 0.8mm や、1.0mm でも十分な場合もありますが、上記の通り火災の遮断等、別の機能も必要となりますので安全性を鑑み、デッキプレートの板厚以上としています。

逆に隙間が大きくコンクリート厚さが厚い場合でも、フラッシングの最大幅 200mm、かつデッキ合成スラブとしてのデッキ山上コンクリートの最大厚さ 100mm の制約条件の範囲であれば、デッキプレートと同じ板厚にすれば安全と考えられます。

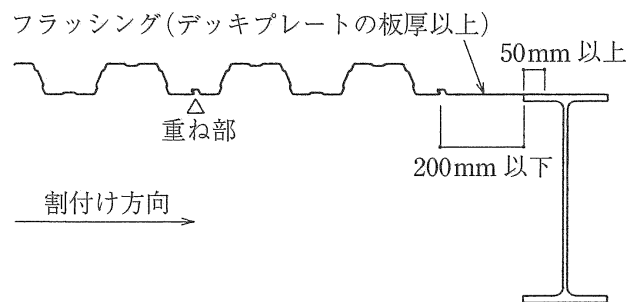


図 1 フラッシングを用いて調整する例